

消防団

な

が

お

か

平成31年2月  
編集発行  
長岡市消防団

長岡市消防団  
始動！

祝長岡市消防出初式

安全で安心な  
まちのために

消防出初式とは・・・

1657年1月に江戸で大火が発生し、江戸の歴史上最大の被害となりました。この大火により定火消が制度化され、2年後の1659年1月4日に江戸幕府の老中稲葉正則が定火消を率いて、上野東照宮前で氣勢をあげました。この行動が出初と呼ばれ、その後、次第に儀式化し、慣例行事となって全国各地で行われるようになりました。

今回の消防団ながおかは

- P1～5 消防出初式
- P6 長岡市表彰
- P7、8 フェニックスだより

# 消防出初式

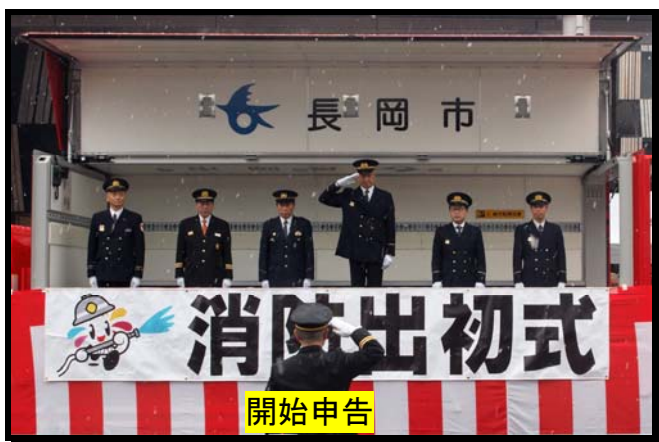
1年の防火防災を祈念する新年恒例の消防出初식을1月6日(日)大手通り及びアオーレ長岡で開催しました。

消防団員による迫力ある一斉放水に、来場者から大きな声援や拍手をいただきました。

続いて、15方面隊の団員約1,300人による分列行進を行い、磯田市長の観閲を受けました。

アオーレ長岡「アリーナ」で行われた式典では、市長から、優良分団表彰、無火災分団の表彰、消防団長から機関点検優良、永年勤続の表彰が行われました。

## <観閲式の様子>



## <磯田市長からの表彰>

### ●優良分団表彰

(第69回新潟県消防大会操法競技会で優秀な成績を収めた分団)

- ・長岡川西方面隊 第16分団 (ポンプ車操法の部 第1位)
- ・長岡川西方面隊 第19分団 (小型ポンプ操法の部 第1位)



【代表受領する第16分団 佐藤分団長】



【代表受領する第19分団 赤川分団長】



【代表受領する長谷川分団長】

### ●無火災分団表彰

(一定の無火災期間を達成した分団)

- ・小国方面隊 第5分団  
ほか38個分団

受賞された皆様  
おめでとうございます

## <五井消防団長からの表彰>

### ●機関点検優良表彰

(各方面隊で最も優秀な部を表彰)

- ・与板方面隊 第2分団第3部  
ほか14個部



【代表受領する松川部長】

### ●永年勤続消防団員表彰

(勤続15年)

- ・長岡川西方面隊 方面隊本部  
分団長 高野 光宏 ほか



【代表受領する高野分団長】

# 消防団協力事業所の表示証を交付（敬称略）

- 株式会社NS・コンピュータサービス（金房3）
- はやし建築有限会社（中沢1）



消防出初式に出席された2事業所  
（左から、はやし建築(有)、(株)NS・コンピュータサービス）

## 長岡市消防団協力事業所として認定されている事業所

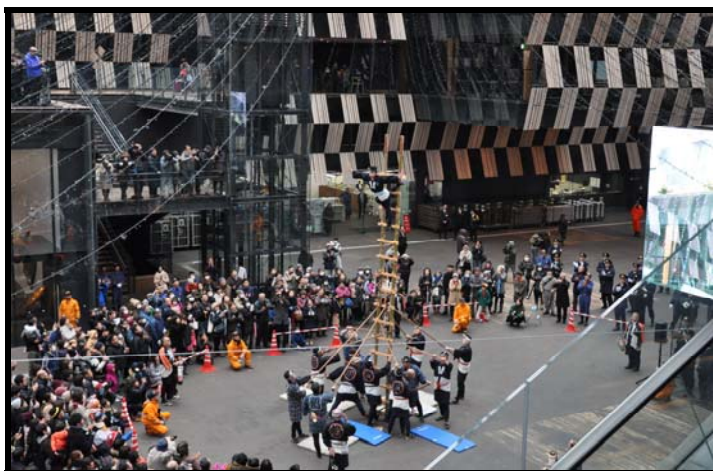
平成31年2月1日現在、長岡市消防団協力事業所として認定されている事業所は、91事業所あります。

詳細は、長岡市のホームページをご覧ください。

長岡市消防団協力事業所一覧

検索

## <ナカドマの様子>



# <式典の様子>



若鷺会による木遣り唄、まとい振り



消防旗に敬礼



丸山議長からの祝辞



五井消防団長の訓示



ラッパ隊による演奏



# 長岡市表彰 晴れの受賞者

消防団員として25年以上の長きにわたり、地域防災に貢献された41名の方が平成30年度長岡市表彰を受賞されました。(敬称略)

所 属	階 級	氏 名
消 防 団 本 部	分 団 長	多 田 晃
長岡中央方面隊	副分団長	栴 澤 友 和
長岡中央方面隊	団 員	水 澤 克 彦
長岡南部方面隊	団 員	原 健 一
長岡南部方面隊	団 員	稲 田 恵 介
長岡北部方面隊	部 長	町 永 美 智 幸
長岡川西方面隊	分 団 長	佐 藤 文 明
長岡川西方面隊	副分団長	中 川 和 之
長岡川西方面隊	団 員	平 澤 勝 義
長岡西部方面隊	副 団 長	伊 津 敏
長岡西部方面隊	分 団 長	布 川 潤
長岡西部方面隊	部 長	廣 川 義 博
越 路 方 面 隊	分 団 長	平 石 清 市
越 路 方 面 隊	分 団 長	長 部 毅
越 路 方 面 隊	分 団 長	吉 原 正 典
越 路 方 面 隊	団 員	永 井 健 吾
越 路 方 面 隊	団 員	岡 村 光 浩
越 路 方 面 隊	団 員	高 橋 智
越 路 方 面 隊	団 員	松 井 圭 介
山古志方面隊	副分団長	藤 井 勝
山古志方面隊	団 員	佐 藤 敏 彦

所 属	階 級	氏 名
山古志方面隊	団 員	小 川 孝 雄
小国方面隊	分 団 長	田 中 則 男
小国方面隊	副分団長	山 岸 真 矢
小国方面隊	部 長	上 柿 久 人
小国方面隊	部 長	安 澤 恵 一
小国方面隊	団 員	富 沢 公 明
小国方面隊	団 員	阿 部 克 典
小国方面隊	団 員	小 林 秀 基
三島方面隊	分 団 長	青 柳 直 人
三島方面隊	団 員	青 柳 哲 也
和島方面隊	団 員	加 勢 広 輝
和島方面隊	団 員	久 須 美 英 貴
寺泊方面隊	団 員	小 熊 真 也
与板方面隊	団 員	小 林 誠
与板方面隊	団 員	本 間 彰
栃尾方面隊	班 長	姉 崎 芳 夫
栃尾方面隊	班 長	飯 塚 良 之
川口方面隊	団 員	佐 藤 誠
退 団 者		
田 村 巧	元長岡西部方面隊 団 員	
堀 井 昭 二	元越路方面隊 団 員	



# 活動中！広報指導分団

# フェニックスだより



※アオーレ長岡で行われた消防出初式式典後、小田島消防長、五井団長を囲んで

## 2019年もよろしくお願ひします！

2011年、東日本大震災の年に広報指導分団の募集が始まり、10月1日付で24人が入団しました。毎年さまざまな事情で退団した方、また新たな入団者があり、現在の在籍数は20人となりました。年間の活動数は約80回にもなりましたが、消防団活動や団員同士のコミュニケーションについて、模索しながら過ごしてまいりました。活動自体は充実してきましたが、まだまだ未熟な分団です。今後もぜひとも皆さま方からのご指導ご鞭撻を賜り、真の消防団員に成長していけるよう、努力してまいります。今年度をもちまして、私と前副分団長の須田は長岡市消防団を退団しますが、広報指導分団の志は変わることはありません。「誰かの…何かの役にたてれば…」この気持ちを大切に、これからも笑顔で活動いたします！

広報指導分団 分団長 酒井敦子



### ＼ 出初式にて分列行進をしました ＼



左：大手通りで分列行進。  
中：来賓受付や表彰補助なども行いました。  
右：今年も式典会場と大手通りでアナウンス。



## 私たちのメンバーを紹介します♪



 **渡邊 爽礼** そら

入団／2018年4月  
住まい／長岡市中央地区  
趣味・特技／旅行、日本語が流暢になりたい

「中国出身で2人の子供を持つ母親です、育児は大体終わりましたが、これから育自(自分)をしたいと思っています。日本の社会に飛び出したいと思い、自分ができる事をしてみたいので、消防団に応募しました。皆さん、どうぞよろしくお願ひします」



 **山岸 奈苗**

入団／2018年4月  
住まい／長岡市川西地区  
趣味・特技／映画鑑賞

「父が消防団に入っていたのがきっかけで入団しました。まだ入ったばかりで右も左も分かりませんが、少しでも地域貢献できればと思っていますのでよろしくお願ひします。新しいことにたくさん挑戦して行きたいと思っています！」



 **佐久間 優美子**

入団／2018年4月  
住まい／長岡市中央地区  
趣味・特技／料理・スポーツなんでも

「中越大地震で実家が被災し、消防の方々にお世話になりました。私も消防士のように活動したいと思い、消防団に興味を持ち広報指導分団に入団しました。今は、地域のために活動できることを誇りに思います。防災知識を身に着け、人の命を守りたいです」

## 2018年度 高齢者宅防火訪問 活動報告

訪問活動：11月1日～30日(全11回)

件数：120件

訪問者：広報指導分団18名

感想：毎年11月に行っている活動です。70歳以上で一人暮らしのお宅に直接訪問し、住宅用火災警報器の設置の有無確認、防火の声掛けから、いろいろなお話をさせていただきました。訪問先では快く迎えてくださり、住宅用火災警報器の点検を一緒にしたり、お話をしっかりと聞いていただくことができました。また、空き家や不在のお宅が多かったのも印象的でした。



## 発足7年のあゆみ

○平成23年10月  
24名入団

○平成24年4月  
27名にて発足。愛称は長岡フェニックスレディースに。  
(活動依頼数13件/年)

○平成25年度-団員32名  
応急手当普及員資格取得、方面隊救命講習へ参加。フェニックスだよりスタート。  
(活動依頼数30件/年)



○平成26年度-団員32名  
広報指導分団用オレンジキャップ完成着用開始  
(活動依頼数35件/年)

○平成27年度-団員32名  
第1回新潟県女性消防団員活性化大会を長岡市にて開催  
(活動依頼数60件/年)

○平成28年度-団員28名  
広報指導分団長が酒井敦子へ。五市一町女性消防団員交流会を長岡市にて開催  
(活動依頼数59件/年)

○平成29年度-団員25名  
一般市民救命講習開始、ながおか女性防災プロジェクトへ参加。長岡大学にて女性消防団員活動紹介  
(活動依頼数71件/年)



○平成30年度-団員23名  
消防音楽隊50周年記念演奏会活動参加  
(活動依頼数81件/年)

市民の皆さまへ  
温かい言葉と笑顔で  
広報・指導活動を広げ  
てまいります

須田珠江

